自治協ニュース
第2902号
発行者
八本松住民
自治協議会
H29.6.20

東広島消防局長から感謝状

火災の初期消火
八本松西二丁目の火災

市川結月さん、市川鈴江さん、蔵本智さん

6月11日東広島市消防局において初期消火における消防局長表彰が行われ。八本松西二丁目の三名の方に感謝状が贈られた。

前左から市川鈴恵さん、市川結月さん、蔵本智さん
後中央古川消防局長、左満井西分署長

この日受賞された市川結月さん（八本松小学校五年）、お母さんの鈴恵さんとご近所の蔵本智さんは5月4日近所で発生した火災を迅速で適切なチームプレーで早期に鎮火させた功績が認められ、古川東広島消防局長から感謝状が贈られた。

当時お母さんの鈴恵さんは火災を見つけるや直ちに119番通報をするとともに娘の結月さんにご近所に火災を知らせるよう指示。結月さんは蔵本さんやご近所に大声で連絡。蔵本さんは日頃使用している庭の植木用の給水施設を消火に使用する機転で初期消火に努め火災の延焼を防いだ。

連絡に貢献した結月さんは古川消防局長から感想を聞かれ「落ち着いて大声でご近所に連絡できたのは平素小学校での火災訓練の体験があったからだと思う」と述べた。

表彰後古川消防局長は「今回の火災は民家が隣接する団地内での火災で皆さんの対応がなかったら延焼火災が十分考えられた。緊迫した火災現場においてのこの行動は皆さんの勇気と行動力によるもので改めて感謝の意を表する」と述べた。

当時の様子を話す市川結月さん（左から二人目）

古川消防局長に聴く

消防局長表彰の後、消防局の最近の取組について尋ねた

今回の火災は昼間の屋外出火でご近所により早期発見ができた。しかし、夜間の屋内火災には住宅用火災警報器の設置が必須で義務化されている。

ご自宅の火災警報器 今一度チェックを

東広島市の設置率は90％で県内13部署中第3位と設置が進んでいる。

しかし、「警報器が古くなると火災を感知しなくなることがあり、10年を目安に交換を進めている。火事は決して他人事ではない、古い火災警報器の取り換えや定期的な電池交換をしていただきたい」と述べた。

これを機に各ご家庭で点検を進められたい。

大山　春の防災訓練

大山ハイツ自主防災会は6月4日東広島消防署西分署を招き八本松西集会所で防災訓練を実施した。住民の皆さん（90世帯、127名）は班別集合場所での安否確認後、八本松西集会所への避難訓練を実施。西集会所では西分署の指導で初期消火、簡易担架での搬送訓練、心臓マッサージとAEDの取扱い等の基本的な訓練を実施。先日同地区で発生した火災が住民の方の初期消火活動で見事に鎮火されたこともあり参加者の皆さんは真剣に取り組まれていた。自主防災会の葛原会長は「一人でも多くの住民の皆さんに基本的な防災技能が身につくよう訓練を繰り返したい」と述べた。

AEDの訓練をする参加者

家族で災害時の打合せを　新ハザードマップ活用

防災研修会開く

八本松西地区自主防災会

八本松西地区自主防災会は5月21日宗吉第一集会所で77名の地域住民の方を対象に防災研修を行った。この地域は土砂災害による被害の恐れのある個所が確認されているため市危機管理課の担当職員を講師に招き日頃の備えと心構えの研修を行った。

特に、最近の広島土砂災害の実体験や新たに配布された防災マップを使って災害時にどのような行動をとるか丁寧な説明がされ、参加者全員熱心に聴講されていた。なお、11月には土嚢づくりや炊き出しなどの防災訓練が計画されている。

新ハザードマップの活用法の研修を受けるみなさん

地域トピックス

リサイクル品活用で地域の活性化　資源ごみ回収開始

八本松西地区

資源ごみを整理する委員の皆さん

八本松西地区（宗吉東・南・北）の「資源ごみ回収実行委員会」（委員長　宮野　清）は地区社協と自治会の有志により高齢世帯のごみ運搬労務の軽減と、ごみ回収益の地域活性化事業への還元を目的に資源ごみの改修活動を開始した。

6月4日（日）には地区内の家庭の玄関先に出された新聞・雑誌・段ボール等（再資源化できるもの）が6台の車で回収され業者の車に積み込まれた。この日の回収世帯数は140世帯と多く、作業に当たられた委員の方も住みよいまちづくりのため、疲労しながらも楽しく回収作業に当たられていた。

なお、この回収益は、地域活性化のため、地区内で催される夏祭り等の行事資金の一部に充てられ区民の皆さんに還元される。（佐々木修一）

安心して歩ける遊歩道を目指して　道づくり

遊歩道の草刈りと収集状況

八本松西地区（宗吉東・南・北）の「道づくり実行委員会」（山崎実行委員長）は、住民の健康増進を目的に設けられた遊歩道が安心して歩けるよう道づくりを実施した。

現状の遊歩道は「蛇がでる」「カヤで手を切る」「車が通ると避けれない」などの問題があり、その解決のため市の道づくりの補助の元に区民の協力を得て草刈り等の美化作業が行われた。

作業は前日、自治会役員により立木の伐採を行い、当日は88名の参加者が安全第一を合言葉に草刈り作業を行った結果、収集した草木の量は準備した150袋に入りきれないほどの量になった。

草刈り機を使用した山本敏昭さんは、「こんなにひどいとは思わなかった。綺麗になり、喜んで歩いてもらえる事に手を貸せた事が自分もうれしい」と感想を述べた。今後も定期的な整備を行うとともに、防犯灯設置など、遊歩道を生活の一部に取り入れ、健康維持ができるよう対策を検討中である。（佐々木修一）

恒例の防災・安否確認を実施

八本松みなみ地区自主防災会

情報の更新と地区内の互助精神の向上がねらい
一斉美化作業に合わせて実施

地区の集合場所での安否確認

八本松みなみ地区自主防災会は6月4日24の地区の集合場所で地域の一斉清掃の作業の前に近所の安否確認の訓練を行った。

この訓練は今回で5回目となり、防災用に班ごと作成された居住者台帳を基に世帯主を読み上げ家族の安否を確認するもの。

確認後、台帳の修正、未記入事項の記載、一人で避難が困難な方の確認等台帳の更新作業がおこなわれたほか、災害時の行動を全体で再確認する作業も行われた。

当日の参加世帯は351世帯（84%）で常に高い参加率を維持している。

また、ある高齢化が進んでいる班では、班長を支え合う姿が見られ、今後、他の班でもこのような地区内の互助精神が防災訓練をとおして育つことを期待する。